

教育文法の立場から見た複合助辞 「～てならない」、「～てたまらない」、 「～てしかたがない」の誤用分析

杉村 泰

キーワード 教育文法、誤用分析、アンケート、思考・心理動詞、感情・感覚形容詞

1. はじめに

日本語の複合助辞「～てならない」、「～てたまらない」、「～てしかたがない」は、いずれも動詞や形容詞（イ形容詞およびナ形容詞）の連用形に付いて、感情や感覚の程度が甚だしいことを表す。従来これら3つの表現は学習者用辞典¹⁾に簡単な意味の記述が見られる程度であった。これに対し、杉村（2002、2007a、2007b）ではこれらの表現の前接部分（「～」の部分）に由来する動詞や形容詞の違いを分析し、次のような傾向の違いがあることを明らかにした。

「～てならない」

「気がする」、「思える」、「残念だ」など自然にある思いがこみ上げてくることを表す表現と共起して、そうした思いが自然にこみ上げてきて頭から離れないほど甚だしいことを表す。

「～てたまらない」

「寂しい」、「暑い」、「痛い」など精神的・身体的な刺激によって生じる感情・感覚表現と共起して、そうした感情や感覚の程度が耐えられないほど甚だしいことを表す。

「～てしかたがない」

「気になる」、「腹が立つ」、「喉が渇く」など自然に湧き起こる感情や感覚を表す表現と共起して、そうした感情や感覚の程度が制御できないほど甚だしいことを表す。

杉村（2007a）では3つの表現の使い分け意識について、日本語母語話者（以

下、母語話者)と中国語を母語とする上級日本語学習者(以下、学習者)の違いを調査した。その結果、母語話者は3つの表現を上の規則で使い分けているのに対し、学習者はいずれも母語話者の「～てたまらない」に似た使い方をしていることが明らかとなった。

本稿では以上の研究を進め、動詞や形容詞の種類ごとに「～てならない」、「～てたまらない」、「～てしかたがない」との共起の仕方を見る。これにより学習者の間違いやすい部分を明らかにし、その傾向と特徴について分析する。

2. アンケート調査の概要

本稿では杉村(2007a)で行ったアンケート調査(文法性判断テスト)の結果に基づいて分析を行なう。調査の概要は次の通りである。

1) 被験者とアンケート実施時期

母語話者:名古屋大学1年生(回答者数は「～てならない」58人、「～てたまらない」と「～てしかたがない」各50人)。2004年11月18日～2005年7月13日実施

学習者:北京第二外国语学院日語系4年生、上海外国語大学日本文化経済学院4年生、東呉大学日本語文学系(台北)4年生(回答者数は東呉大学の「～てならない」のみ49人、残りは全て50人ずつ)。2004年11月24日～2006年2月28日実施

2) アンケート用紙の内容

質問 次の表現が正しいと思う場合は○を、正しくないと思う場合は×を入れて下さい。

- | | | |
|-------------|---------------|-------------|
| () 諦めてならない | () 味がしてならない | () 焦ってならない |
| () 慌ててならない | () 案じられてならない | () 痛んでならない |
| ⋮ | ⋮ | ⋮ |
| () 静かでならない | () 残念でならない | () 好きでならない |

(「～てたまらない」と「～てしかたがない」も同様に調査)

3) 調査する動詞・形容詞(72語)²⁾

心理動詞A：自然にある思いがこみ上げてくることを表す動詞

（気がする、気になる、気がつく、感じる、感じられる、案じられる、期待される、想像される）

心理動詞B：ある感情の発生を表す動詞（「～スルナ」の形で禁止を表すことができる。この点で心理動詞Aに比べて感情のコントロールが効きやすい。）

（焦る、慌てる、忘れる、諦める、感動する）

思考動詞：大腦による思惟活動を表す動詞

（思う、思える、思われる、思いつく、考える、考えられる、考えつく、分かる、分からない）

生理動詞：人の生理的反応を表す動詞

（喉が渇く、腹が減る）

知覚・感覚動詞：人の感覚器官を通じて知覚する心理過程を表す動詞

（見える、聞こえる、におう、かおる、味がする、痛む）

感情動詞：外界の刺激に反応する人間の心理作用を表す動詞

（腹が立つ、怒る、怒れる、笑う、笑える、泣く、泣ける）

非心理動詞：心理活動を表さない動詞

（食べる、寝る、見る、聞く、起こる、沸く）

被動動詞：受身を表す接辞「（ら）れる」の付いた動詞

（間違われる、聞かれる）

感情形容詞：外界の刺激に反応する人間の心理作用を表す形容詞

（寂しい、うれしい、恐ろしい、怖い、楽しい、残念だ、嫌だ、嫌いだ、好きだ）

感覚形容詞：人の感覚器官を通じて知覚する心理過程を表す形容詞

（うるさい、苦しい、痛い、冷たい、暑い、寒い、暖かい、涼しい、おいしい、まずい、甘い、辛（から）い）

属性形容詞：人や事物に備わった性質や特徴を表す形容詞

（広い、狭い、物価が高い、赤い、静かだ、元気だ）

調査する動詞・形容詞を上記の72語に限定したのは、アンケート項目を多くすると被験者の回答が雑になる恐れがあり、A4用紙1枚に収まるようにしたためである。72語の選定は、まずCD-ROM版「新潮文庫の100冊」のうち日本人作家による67冊と、日本語用例・コロケーション抽出システム『茶漣』（一般公開版）³⁾を検索し、両コーパスの上位に出現する「気がする」、「思われる」、「気になる」などの動詞や「うれしい」、「好きだ」、「嫌だ」などの形容詞を選んだ。

次に先行研究で問題となっていた「暑い」、「痛い」、「高い」、「狭い」、「喉が渇く」、「腹が減る」などを加え、最後に「～てならない」等とは共起しにくいと思われる「食べる」、「寝る」、「静かだ」などの語を加えて行った。

3. 動詞・形容詞の種類ごとの分析

本節では72語の動詞や形容詞を上11種類に分類し、それぞれの種類ごとにいかなる動詞や形容詞が「～てならない」、「～てたまらない」、「～てしかたがない」の3つの表現と共起しやすいかを見る。(母語話者の文法性判断による。)⁴⁾

3.1 心理動詞A

心理動詞Aは自然にある思いがこみ上げてくることを表す動詞である。許容度は表1のとおりである。表1を見ると、3つの表現とも「気がする」、「気になる」と共起やすく、「気がつく」とは共起しにくいことが分かる。これは「気がする」、「気になる」が持続的な心理状態を表すのに対し、「気がつく」は瞬間的な心理変化を表すためであると考えられる。「～てならない」等はいずれも持続的な心理状態を表すため、瞬間動詞とは相性が悪いのである。

なお、本稿の調査のように3つの表現それぞれについて「この表現は正しいと思いますか」と聞くと3つとも似たような傾向を示すが、『～して()』の括弧の中に『ならない』、『たまらない』、『しかたがない』、『× (どれも当てはまらない)』のうち一つを選んでください」という聞き方をすると、「気がして～」は80.0%の人が「ならない」を選び、「気になって～」は62.0%の人が「しかたがない」を選ぶというように選択に偏りが生じる。このことから、例えば「気がしてたまらない」は「間違いではないがあまり使わない表現である」というようなことが分かる。この点については杉村(2007b)で論じている。

表1 心理動詞A (単位%)

～ならない		～たまらない		～しかたがない	
気がして	91.4	気になって	92.0	気になって	100.0
気になって	77.6	気がして	86.0	気がして	80.0
感じられて	69.0	感じて	52.0	感じられて	74.0
案じられて	56.9	期待されて	48.0	案じられて	48.0
想像されて	44.8	感じられて	46.0	想像されて	44.0
感じて	39.7	案じられて	40.0	感じて	40.0
期待されて	34.5	想像されて	34.0	期待されて	40.0
気がついて	8.6	気がついて	8.0	気がついて	24.0

3. 2 心理動詞B

心理動詞Bはある感情の発生を表す動詞である。「～スルナ」の形で禁止を表すことができる点で、心理動詞Aに比べて感情のコントロールが効きやすい点に特徴がある。許容度は表2のとおりである。表2を見ると、3つの表現とも全体的に心理動詞Bとは共起しにくいことが分かる。このことから、3つの表現は同じ心理動詞でも多少なりとも主体による制御が働きやすいものとは共起しにくいことが分かる。ただし、「焦ってしかたがない」のみは許容度が68.0%と相対的に高くなっている。この理由は、「～てしかたがない」は「気になる」、「腹が立つ」のように自然に湧き起こる心の動揺を表す表現と共起しやすく、「焦る」もそうした焦燥感を表す点で共通しているためであると考えられる。また、心理動詞Bの場合、全体的に許容度が低い、その中でも「忘れる」、「諦める」は相対的に許容度が低い。これも心理動詞Aの場合と同じように、「忘れる」、「諦める」は瞬間動詞だからであると考えられる。

表2 心理動詞B (単位%)

～ならない		～たまらない		～しかたがない	
焦って	36.2	感動して	36.0	焦って	68.0
感動して	19.0	焦って	30.0	感動して	22.0
慌てて	17.2	忘れて	6.0	慌てて	22.0
忘れて	12.1	慌てて	2.0	忘れて	12.0
諦めて	3.4	諦めて	0.0	諦めて	12.0

3. 3 思考動詞

思考動詞は大腦による思惟活動を表す動詞である。許容度は表3のとおりである。表3を見ると、「～てならない」と「～しかたがない」は「思える」や「思われる」と共起しやすいことが分かる。これは、「思える」も「思われる」も持続的な心理状態を表し、「*思えろ／*思えるな」、「*思われろ／*思われるな」のように命令形や禁止形にならず、感情のコントロールが効かないためである。ただし、「～てたまらない」の場合は他の2つに比べて相対的に許容度が落ちる。一方、「考えつく」、「思いつく」、「分かる」は心理動詞Aの「気がつく」と同様、瞬間的な心理変化を表すため許容度が低くなる。また、「思う」や「考える」は「思え／思うな」、「考えろ／考えるな」のように感情のコントロールが効きやすいため、「考えられる」は自発よりも可能的解釈が強いため、「分からない」は自発ではなく主体の知識の保有状態をいうものであるため、3つの表現と共起しにくいと考えられる。なお、3つの表現ともに「分かる」より「分からない」の方が許容度が上がるのは、「分からない」の方が持続的な表現であるためであると考えられる。

表3 思考動詞（単位％）

～ならない		～たまらない		～しかたがない	
思えて	89.7	思えて	66.0	思えて	88.0
思われて	75.9	思われて	44.0	思われて	72.0
考えられて	34.5	分からなくて	26.0	考えられて	48.0
思って	13.8	考えられて	24.0	分からなくて	42.0
分からなくて	13.8	思って	24.0	思いついて	30.0
考えついて	12.1	分かって	14.0	分かって	20.0
考えて	8.6	考えついて	10.0	思って	18.0
思いついて	5.2	考えて	10.0	考えついて	14.0
分かって	3.4	思いついて	10.0	考えて	12.0

3. 4 生理動詞

生理動詞は人の生理的反応を表す動詞である。許容度は表4のとおりである。表4を見ると、生理動詞は3つの表現とも共起しやすいことが分かる。ただし、この中では「腹が減ってならない」は相対的に許容度が落ちている。「喉が渇く」だとその気持ちが体の中からこみ上げてくる感じがするため「～てならない」と共起するが、「腹が減る」だと精神的・身体的な刺激のイメージが強

いため許容度が落ちるのではないかと考えられる。

表4 生理動詞（単位％）

～ならない		～たまらない		～しかたがない	
喉が渴いて	81.0	喉が渴いて	96.0	喉が渴いて	94.0
腹が減って	56.9	腹が減って	92.0	腹が減って	86.0

3. 5 知覚・感覚動詞

知覚・感覚動詞は人の感覚器官を通じて知覚する心理過程を表す動詞である。許容度は表5のとおりである。表5を見ると、知覚・感覚動詞は全体的に3つの表現と共起しにくい、「痛む」や「聞こえる」はこのの中では許容度が高いことが分かる。ただし、痛覚的な刺激の甚だしさを言う場合には、感覚形容詞を使って「痛くて～」と言うのが普通である。また、全体的に「見える」より「聞こえる」の方が許容度が高い。これは、「見える」は見る人が見ないようにすれば見えないが、「聞こえる」は聞こうとしなくても自然に音が耳に入ってくるといように、「聞こえる」の方がコントロールが効きにくく、より自発的な感じがするためではないかと考えられる。

表5 知覚・感覚動詞（単位％）

～ならない		～たまらない		～しかたがない	
痛んで	50.0	聞こえて	42.0	痛んで	52.0
聞こえて	48.3	痛んで	32.0	聞こえて	50.0
におって	34.5	味がして	16.0	におって	44.0
味がして	32.8	におって	14.0	見えて	30.0
見えて	27.6	かおって	12.0	味がして	20.0
かおって	10.3	見えて	12.0	かおって	12.0

3. 6 感情動詞

感情動詞は外界の刺激に反応する人間の心理作用を表す動詞である。許容度は表6のとおりである。表6を見ると、同じ感情を表す動詞でも「腹が立つ」、「笑える」、「泣ける」、「怒れる」の許容度が相対的に高いのに対し、「怒る」、「笑う」、「泣く」の許容度は低くなっていることが分かる。これは前者が自発

的な動詞であるのに対し、後者は命令形や禁止形になることから分かるように自発的な動詞ではないためである。ところが、後の4節の表12、14、16からも分かるように、学習者は「怒って～」、「笑って～」、「泣いて～」という表現を母語話者よりかなり高く許容している。したがって、日本語教育ではこの点に注意させることが必要である。また、怒りを表す場合、「怒れて～」より「腹が立って～」の許容度の方が30ポイント以上高くなっている。杉村（2007a、2007b）のコーパス調査でも、「怒れる」は実際にはあまり使われない表現であるという結果が出ている。⁵⁾

表6 感情動詞（単位％）

～ならない		～たまらない		～しかたがない	
腹が立って	77.6	腹が立って	88.0	腹が立って	98.0
笑えて	77.6	笑えて	74.0	笑えて	80.0
泣けて	51.7	泣けて	68.0	泣けて	66.0
怒れて	43.1	怒れて	54.0	怒れて	58.0
怒って	8.6	怒って	18.0	怒って	16.0
笑って	3.4	泣いて	18.0	泣いて	12.0
泣いて	0.0	笑って	14.0	笑って	10.0

3. 7 非心理動詞

非心理動詞は心理活動を表さない動詞である。許容度は表7のとおりである。表7からも分かるように非心理動詞は3つの表現とほとんど共起しない。

表7 非心理動詞（単位％）

～ならない		～たまらない		～しかたがない	
起こって	5.2	起こって	4.0	起こって	10.0
見て	3.4	聞いて	4.0	沸いて	8.0
聞いて	1.7	見て	2.0	聞いて	6.0
沸いて	1.7	沸いて	2.0	見て	4.0
寝て	1.7	寝て	2.0	寝て	4.0

3. 8 被動動詞

被動動詞は受身を表す接辞「(ら)れる」の付いた動詞である。許容度は表8

のとおりである。表8からも分かるように被動動詞は3つの表現と共起しにくい。ただし、「間違われてしかたがない」はこの中では許容度が高くなっている。この理由は、一つには「そんなことしたら人に間違われても仕方がない」と言うときの自立語の「仕方がない（文句が言えない）」の影響があると考えられる。もう一つは「間違われる」を自発の意味で解釈する母語話者もいる可能性が考えられる。自立語の「仕方がない」と助辞の「しかたがない」の関係にせよ、受身の「(ら)れる」と自発の「(ら)れる」の関係にせよ、興味のある研究テーマではあるが、詳しい分析は今後の課題とする。⁶⁾

表8 被動動詞（単位％）

～ならない		～たまらない		～しかたがない	
間違われて	25.9	間違われて	32.0	間違われて	44.0
聞かれて	12.1	聞かれて	12.0	聞かれて	14.0

3. 9 感情形容詞

感情形容詞は外界の刺激に反応する人間の心理作用を表す形容詞である。許容度は表9のとおりである。表9を見ると、感情形容詞は全体的に3つの表現と共起しやすく、中でも「～てたまらない」の許容度が高くなることが分かる。一方、同じ感情を表す形容詞でも「好きでならない」、「嫌いで {ならない／たまらない／しかたがない}」は相対的に許容度が低くなっている。ところが、学習者の場合「好きでならない」の許容度は63.8%と母語話者より27.6ポイントも高い。したがって、日本語教育では「好きで～」と来れば「たまらない」あるいは「しかたがない」と言うのが普通であることを教える必要がある。また、嫌悪感が甚だしい場合、母語話者は「嫌いで～」よりも「嫌で～」の許容度の方がずっと高くなる。ところが、学習者は「嫌いで {ならない／たまらない／しかたがない}」の許容度をそれぞれ69.8%、76.0%、67.3%と母語話者より高めに捉えているのに対し、「嫌で {ならない／たまらない／しかたがない}」はそれぞれ75.8%、73.3%、66.0%と母語話者より低めに捉えており、両者の差が小さくなっている。これは、学習者は「嫌いだ」と「嫌だ」の違いを習得し切れていないためであると考えられる。「嫌いだ」は「私は昔から甘い物が嫌いだ」のように主体の属性的な感情を表すため、「ある程度恒常的な自分の好みを表す言葉」（大曾1986：110）であるのに対し、「嫌だ」は「（急に襲われて）いやー！」のように発話時点での感情を表せるという違いがある。「嫌いだ」は同じ感情形容詞でも属性形容詞に近い性質を持つため3つの表現と共起しにくい

と考えられる。

表9 感情形容詞（単位％）

～ならない		～たまらない		～しかたがない	
寂しくて	84.5	寂しくて	98.0	うれしくて	92.0
残念で	84.5	嫌で	96.0	寂しくて	90.0
嫌で	81.0	うれしくて	92.0	残念で	86.0
うれしくて	69.0	恐くて	84.0	楽しくて	80.0
恐ろしくて	67.2	好きで	84.0	嫌で	76.0
恐くて	62.1	楽しくて	82.0	恐くて	76.0
楽しくて	60.3	恐ろしくて	80.0	好きで	76.0
嫌いで	44.8	残念で	76.0	恐ろしくて	72.0
好きで	36.2	嫌いで	54.0	嫌いで	50.0

3. 10 感覚形容詞

感覚形容詞は人の感覚器官を通じて知覚する心理過程を表す形容詞である。許容度は表10のとおりである。表10を見ると、「うるさい」、「暑い」、「寒い」、「痛い」など感覚刺激の強いもののほど3つの表現と共起しやすく、中でも「～てたまらない」の許容度が高くなることが分かる。また、味覚形容詞「甘い」、「辛（から）い」、「おいしい」の場合、「～てならない」や「～てしかたがない」に比べ「～てたまらない」の許容度がかなり高くなるのが注目される。一方、同じ感覚形容詞でも「暖かい」や「涼しい」は相対的に許容度が低くなっている。これは「～てならない」等3つの表現は感情や感覚の程度が甚だしいことを表す表現であり、「暑い」や「寒い」のように通常レベルを超える極端な程度を表すものとは共起しやすいが、「暖かい」や「涼しい」のように極端な程度を表しにくいものとは共起しにくいためであると考えられる。なお、「暖かくて～」に比べ「涼しくて～」の許容度が多少上がるのは、「涼しい」の場合「秋も深まりこの服ではちょっと涼しすぎる」のように涼しさの限度を超える意味で使われることが「暖かい」よりも多いためであると考えられる。

表10 感覚形容詞（単位％）

～ならない		～たまらない		～しかたがない	
うるさくて	81.0	暑くて	98.0	うるさくて	88.0
寒くて	69.0	寒くて	96.0	寒くて	86.0
暑くて	67.2	痛くて	96.0	暑くて	84.0
苦しくて	67.2	うるさくて	96.0	痛くて	84.0
痛くて	65.5	苦しくて	94.0	苦しくて	80.0
冷たくて	48.3	辛くて	82.0	冷たくて	68.0
まずくて	48.2	おいしくて	82.0	まずくて	68.0
甘くて	22.4	甘くて	80.0	辛くて	64.0
辛くて	22.4	冷たくて	70.0	甘くて	56.0
おいしくて	20.7	まずくて	68.0	おいしくて	48.0
涼しくて	8.6	涼しくて	30.0	涼しくて	20.0
暖かくて	6.9	暖かくて	16.0	暖かくて	14.0

3. 11 属性形容詞

属性形容詞は人や事物に備わった性質や特徴を表す形容詞である。許容度は表11のとおりである。表11を見ると、一般的に属性形容詞は3つの表現と共起しにくいことが分かる。ただし、「狭い」や「物価が高い」のようにマイナスイメージを持つ言葉の場合、単にその対象物の属性を表すのみでなく、話し手の「狭くて嫌だ」、「物価が高くて嫌だ」という感情が入りやすいため、相対的に許容度が高くなると考えられる。なお、全体的に「～てならない」は「～てたまらない」や「～てしかたがない」に比べ許容度が低くなっている。このことから「～てならない」は自然にある思いがこみ上げてくる場合以外には使いにくいことが分かる。

表11 属性形容詞（単位％）

～ならない		～たまらない		～しかたがない	
狭くて	60.3	狭くて	76.0	狭くて	70.0
物価が高くて	25.9	物価が高くて	54.0	物価が高くて	54.0
静かで	20.7	静かで	42.0	広くて	24.0
広くて	12.1	広くて	30.0	赤くて	24.0
赤くて	10.3	赤くて	22.0	元気で	24.0
元気で	1.7	元気で	8.0	静かで	22.0

4. 学習者の誤りやすい表現、誤りにくい表現

本節では「～てならない」、「～てたまらない」、「～てしかたがない」の順に、母語話者と学習者の許容度の差が大きいものと小さいものを抽出して分析する。これにより、学習者の誤りやすい表現と誤りにくい表現の特徴を明らかにする。

4.1 「～てならない」

まず「～てならない」において母語話者と学習者の許容度の差が大きいものについて検討する。表12の左側は母語話者の許容度の方が大きいもの上位10例、右側は学習者の許容度の方が大きいもの上位10例である（表13～17も同様）。表12の左側を見ると、母語話者は「{|気がして／思えて／思われて| ならない」を「～てならない」の典型例と捉えているのに対し、学習者はこの許容度を低く捉えていることが分かる。また、「{|笑えて／聞こえて／感じられて／案じられて／泣けて| ならない」も学習者は母語話者より許容度を低く捉えている。一方、表12の右側を見ると、学習者は母語話者と違い心理動詞Bの「慌てる」、「感動する」や、非自発的な感情動詞の「怒る」、「笑う」との共起を高く捉えていることが分かる。また、味覚形容詞の「辛い」、「甘い」、「おいしい」や、感覚形容詞の「暖かい」、「涼しい」、属性形容詞の「元気だ」との共起も高く捉えていることが分かる。したがって、学習者には「～てならない」は人間の心理を表す動詞や形容詞のうち、自発動詞と共起するのが典型であることを教えるとともに、学習者に自発動詞の習得を促すことが必要である。また、喜怒の程度が甚だしい場合は「{|腹が立って／笑えて| しかたがない」と言い、⁷⁾ 味覚の程度が甚だしい場合は「{|辛くて／甘くて／おいしくて| たまらない」と言うことを教える必要がある。

次に母語話者と学習者の許容度の差が小さいものについて見ると、表13に示すように、生理動詞の「腹が減る」、「喉が渇く」、感情形容詞の「嫌だ」、「残念だ」、「寂しい」、「うれしい」、感覚形容詞の「うれしい」、さらに「気になる」や「腹が立つ」のような動詞との共起は母語話者に近い高さを保っていることが分かる。したがって、このような動詞や形容詞は母語話者に近い感覚で習得できると考えられる。

表12 「～てならない」の許容度の差（大）（単位ポイント）

	母語話者	学習者	両者の差		母語話者	学習者	両者の差
思えて	89.7	34.2	55.5	慌てて	17.2	82.6	-65.4
笑えて	77.6	34.9	42.7	怒って	8.6	73.2	-64.6
気がして	91.4	51.0	40.4	感動して	19.0	74.5	-55.5
思われて	75.9	42.3	33.6	涼しくて	8.6	60.1	-51.5
聞こえて	48.3	21.5	26.8	辛くて	22.4	73.2	-50.8
感じられて	69.0	42.3	26.7	暖かくて	6.9	57.0	-50.1
案じられて	56.9	30.9	26.0	甘くて	22.4	71.8	-49.4
泣けて	51.7	28.5	23.2	笑って	3.4	47.7	-44.3
味がして	32.8	16.1	16.7	おいしくて	20.7	64.1	-43.4
感じて	39.7	28.9	10.8	元気で	1.7	43.6	-41.9

表13 「～てならない」の許容度の差（小）（単位ポイント）

	母語話者	学習者	両者の差		母語話者	学習者	両者の差
腹が立って	77.6	74.5	3.1	喉が渴いて	81.0	85.2	-4.2
嫌で	81.0	75.8	5.2	狭くて	60.3	65.1	-4.8
におって	34.5	28.9	5.6	怒れて	43.1	49.0	-5.9
間違われて	25.9	20.1	5.8	うるさくて	81.0	87.9	-6.9
気になって	77.6	70.8	6.8	考えついて	12.1	19.5	-7.4
想像されて	44.8	36.9	7.9	寂しくて	84.5	93.3	-8.8
残念で	84.5	75.2	9.3	うれしくて	69.0	79.9	-10.9
見えて	27.6	18.1	9.5	かおって	10.3	21.5	-11.2
腹が減って	56.9	46.3	10.6	分かって	3.4	14.8	-11.4
感じて	39.7	28.9	10.8	考えられて	34.5	46.4	-11.9

4.2 「～たまらない」

次に「～てたまらない」において母語話者と学習者の許容度の差が大きいものについて検討する。表14の左側を見ると、学習者は母語話者に比べ「{笑えて／泣けて／気がして／思えて} たまらない」の許容度を低く捉えていることが分かる。ただし、杉村（2007a、2007b）のコーパス調査から明らかのように、実例では「{笑えて／泣けて} しかたがない」、「{気がして／思えて} ならない」の出現数が圧倒的に多くなるため、学習者にはこれを教える必要がある。⁸⁾ —

方、表14の右側を見ると、学習者は母語話者に比べ心理動詞Bの「慌てる」、「感動する」、「焦る」、非自発的な感情動詞の「怒る」、「笑う」、感覚形容詞の「暖かい」、「涼しい」、属性形容詞の「元気だ」、「赤い」との共起を高く捉えていることが分かる。したがって、学習者にはこのような動詞や形容詞は「～てたまらない」と共起しにくいことを教える必要がある。

次に母語話者と学習者の許容度の差が小さいものについて見ると、表15に示すように、感覚形容詞の「暑い」、「寒い」、「痛い」、「苦しい」、感情形容詞の「うれしい」、「寂しい」、「恐ろしい」、「恐い」、味覚形容詞の「甘い」、「辛い」との共起は母語話者同様に高い。したがって、学習者は母語話者と同様に感情・感覚形容詞との共起を「～てたまらない」の典型と捉えていることが分かる。ただし、表14に示されるように学習者は「痛んでたまらない」の許容度も高く捉えている。したがって、学習者には痛みの程度が甚だしいときには「痛くてたまらない」と言うのが普通であることを教える必要がある。

表14 「～てたまらない」の許容度の差（大）（単位ポイント）

	母語話者	学習者	両者の差		母語話者	学習者	両者の差
笑えて	74.0	30.7	43.3	慌てて	2.0	76.7	-74.7
泣けて	68.0	26.0	42.0	怒って	18.0	72.7	-54.7
気がして	86.0	44.0	42.0	感動して	36.0	86.0	-50.0
思えて	66.0	26.0	40.0	痛んで	32.0	76.0	-44.0
気になって	92.0	60.7	31.3	焦って	30.0	72.0	-42.0
腹が減って	92.0	60.7	31.3	笑って	14.0	52.7	-38.7
感じて	52.0	24.7	27.3	暖かくて	16.0	54.0	-38.0
聞こえて	42.0	16.7	25.3	涼しくて	30.0	57.3	-27.3
感じられて	46.0	22.0	24.0	元気で	8.0	31.3	-23.3
嫌で	96.0	73.3	22.7	赤くて	22.0	44.7	-22.7

表15 「～てたまらない」の許容度の差（小）（単位ポイント）

	母語話者	学習者	両者の差		母語話者	学習者	両者の差
分からなくて	26.0	20.7	5.3	恐ろしくて	80.0	80.7	-0.7
暑くて	98.0	93.3	4.7	恐くて	84.0	85.3	-1.3
甘くて	80.0	76.7	3.3	見えて	12.0	13.3	-1.3
におって	38.0	34.7	3.3	味がして	16.0	20.0	-4.0
うれしくて	92.0	89.3	2.7	考えて	10.0	14.7	-4.7
寒くて	96.0	93.3	2.7	起こって	4.0	9.3	-5.3
痛くて	96.0	93.3	2.7	期待されて	48.0	55.3	-7.3
苦しくて	94.0	91.3	2.7	聞かれて	12.0	20.0	-8.0
考えられて	24.0	22.0	2.0	辛くて	82.0	90.0	-8.0
寂しくて	98.0	97.3	0.7	考えついて	10.0	18.7	-8.7

4.3 「～しかたがない」

次に「～てしかたがない」において母語話者と学習者の許容度の差が大きいものについて検討する。表16の左側を見ると、学習者は母語話者に比べ自発動詞の「{思えて／思われて／気がして／笑えて／感じられて}しかたがない」、生理動詞の「腹が減ってしかたがない」、喜びや楽しみの感情を表す感情形容詞の「{うれしくて／楽しくて}しかたがない」の許容度を低く捉えていることが分かる。また、「{気になって／腹が立って}しかたがない」は学習者も70%以上の許容度を示しているが、母語話者はほぼ100%の人が自然な表現であると判断している。一方、表16の右側を見ると、学習者は母語話者に比べ心理動詞Bの「慌てる」、「感動する」、「諦める」、「忘れる」、非自発的な感情動詞の「怒る」、「泣く」、「笑う」との共起を高く捉えていることが分かる。したがって、学習者には「～てしかたがない」は「気になる」、「腹が立つ」など自然に湧き起こる感情や感覚を表す表現と共起するのが典型で、感情のコントロールが効きやすい心理動詞Bや非自発的な感情動詞とは共起しにくいこと、喜怒哀楽の程度が甚だしい場合は「{腹が立って／笑えて／泣けて}しかたがない」ということを教える必要がある。

次に母語話者と学習者の許容度の差が小さいものについて見ると、表17に示すように、感覚形容詞の「冷たい」、「苦しい」、「痛い」、「暑い」や、感情形容詞の「寂しい」、「恐ろしい」は母語話者と同じぐらい高い許容度を示している。味覚形容詞の「まずい」、「甘い」、「辛い」も母語話者と同じ程度の許容度である。興味深いのは、母語話者も学習者も「広くてしかたがない」は20%台の低

い許容度であるのに対し、「狭くてしかたがない」は70%台の高い許容度を示している点である。これは「広い」に比べ「狭い」の方が「狭くて嫌だ」という感情が入りやすいため、属性形容詞から感情形容詞に近づくためであると考えられる。

表16 「～てしかたがない」の許容度の差（大）（単位ポイント）

	母語話者	学習者	両者の差		母語話者	学習者	両者の差
思えて	88.0	39.3	48.7	慌てて	22.0	72.7	-50.7
笑えて	80.0	37.3	42.7	感動して	22.0	64.7	-42.7
楽しくて	80.0	45.3	34.7	怒って	16.0	58.0	-42.0
感じられて	74.0	44.0	30.0	泣いて	12.0	50.7	-38.7
腹が減って	86.0	56.0	30.0	諦めて	12.0	50.0	-38.0
腹が立って	98.0	70.7	27.3	笑って	10.0	46.7	-36.7
気になって	100.0	73.3	26.7	忘れて	12.0	46.0	-34.0
うれしくて	92.0	66.7	25.3	聞かれて	14.0	39.3	-25.3
思われて	72.0	47.3	24.7	物価が高くて	54.0	76.7	-22.7
気がして	80.0	56.7	23.3	沸いて	8.0	29.3	-21.3

表17 「～てしかたがない」の許容度の差（小）（単位ポイント）

	母語話者	学習者	両者の差		母語話者	学習者	両者の差
冷たくて	68.0	67.3	0.7	狭くて	70.0	71.3	-1.3
苦しくて	80.0	79.3	0.7	まずくて	68.0	70.0	-2.0
痛くて	84.0	82.7	1.3	甘くて	56.0	59.3	-3.3
暑くて	84.0	82.7	1.3	焦って	68.0	72.0	-4.0
味がして	20.0	17.3	2.7	広くて	24.0	28.0	-4.0
おいしくて	48.0	44.0	4.0	思いついて	30.0	34.7	-4.7
分かって	20.0	16.0	4.0	間違われて	44.0	51.3	-7.3
寂しくて	90.0	86.0	4.0	思って	18.0	25.3	-7.3
案じられて	48.0	43.3	4.7	辛くて	64.0	72.7	-8.7
元気で	24.0	18.7	5.3	恐ろしくて	72.0	80.7	-8.7

5. まとめ

以上、本稿では日本語の複合助辞「～てならない」、「～てたまらない」、「～てしかたがない」を対象に、前接する動詞や形容詞の特徴について分析した。その結果、同じ感情を表す動詞でも自発動詞の「腹が立つ／笑える／泣ける」は3つの複合助辞と共起しやすいが、自発動詞でない「怒る／笑う／泣く」は3つの複合助辞と共起しにくいことなどを明らかにした。また、母語話者と学習者の許容度の違いを比較して、教育文法の立場から学習者の間違いやすい部分を明らかにした。その結果、母語話者は痛みの程度が甚だしい場合に「痛んでたまらない」ではなく「痛くてたまらない」と言うのが普通であるのに対し、学習者はいずれも言えると考えていることなどが分かった。これら3つの複合助辞は意味が近似しているため、母語話者でも内省でその使い分けを探るのは難しい。本稿ではアンケート調査を活用することにより、母語話者の使用意識を数値で示すとともに、学習者の間違いやすい部分を明らかにすることができた。

注

- 1) Makino and Tsutsui (1986, 1995)、グループ・ジャマシイ (1998)、庵功他 (2001) を参照。
- 2) 本稿では「思われる」、「聞かれる」、「分からない」など学校文法で「動詞の未然形＋自発・受身・打消の助動詞」とされているものも1語の動詞として扱う。なお、日本語の心理動詞や心理形容詞の分類にはいまだ明確な基準が示されておらず、本稿の分類も暫定的なものである。
- 3) 『茶漉』（一般公開版）は (<http://tell.fl.purdue.edu/chakoshipub/>) にある。
- 4) 毛 (2002) は小説、シナリオ、新聞をコーパスとして、3つの表現が「自発感覚」、「感情」、「評価」、「生理反応」、「客観状況」のどれと共起しやすいかを数字で示している。
- 5) 本稿の査読者からは、自発の意味を表す「怒（おこ）れる」は愛知県特有の表現ではないかとの指摘があった。
- 6) 本稿の査読者からは、受け身の意味を表す「間違われる」は不自然な気がするとの指摘があったが、ウェブ検索では多数出現する。方言差があるのかもしれない。
- 7) 杉村 (2007a, 2007b) のコーパス調査によると、実例では「～てしかたが

ない」の出現数が圧倒的に多くなる。(表18)

表18 gooのウェブ検索による調査結果
2006年6月3日～4日実施(数字はヒット数)

～ならない		～たまらない		～しかたがない	
腹が立って	228	腹が立って	153	腹が立って	6,168
笑えて	44	笑えて	46	笑えて	1,241
泣けて	27	泣けて	118	泣けて	1,957

8) コーパス調査の結果は次の通りである。(表19)

表19 gooのウェブ検索による調査結果
2006年6月3日～4日実施(数字はヒット数)

～ならない		～たまらない		～しかたがない	
気がして	86,339	気がして	484	気がして	8,188
思えて	86,465	思えて	91	思えて	27,919

参考文献

- 庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘(2001)『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』, スリーエーネットワーク
- 大曾美恵子(1986)「誤用分析3 「きのうの映画、どうでしたか。—好きでした。」」『日本語学』11月号 第5巻第11号, 明治書院, pp.110-113
- グループ・ジャマシイ(1998)『日本語文型辞典』, くろしお出版
- 杉村 泰(2002)「コーパス調査による文法性判断の有効性 ——「～てならない」を例にして——」『日本語教育』114号, 日本語教育学会, pp.60-69
- (2007 a)「「～てならない」、「～てたまらない」、「～てしかたがない」の使い分け ——日本語母語話者と日本語学習者の比較——」『世界の日本語教育』第17号, 国際交流基金, pp.1-15
- (2007 b)「試論語料庫調査と问卷调查在语法研究上的异同 ——以日语复合助动词“～てならない”、“～てたまらない”、“～てしかたがない”为例——」『日语研究』第5輯, 商务印书馆(掲載予定)

- 毛 文偉 (2002) <试析复合辞“～テナラナイ”、“～テショウガナイ”、“～テタマラナイ”的异同 ——语料库统计法在语法研究中的应用一例>《解放军外国语学院学报》第25卷第3期, 解放军外国语学院, pp.62-66.
- Makino, Seiichi and Michio Tsutsui. 1986. A dictionary of Basic Japanese Grammar. The Japan Times.
- Makino, Seiichi and Michio Tsutsui. 1995. A dictionary of Intermediate Japanese Grammar. The Japan Times.

